

# あけましておめでとうございます

日高農業改良普及センター 所長 北島 潤



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな年をご家族と共に健やかに迎えのことと、心よりお慶びを申し上げます。

また、日頃より普及センターの活動に際しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の5類区分移行に伴い行動規制や制限が緩和され、日常活動も以前の状況に戻りつつあります。農業分野におきましても、需給動向の一部回復がうかがえるようにな

りました。ただ、肥料・燃油・飼料などの農業資材は高止まりのままであり、依然として苦労の絶えない一年であったかと思えます。

そのような中、4月～10月の農耕期間の気象経過を振り返りますと、気温は4～5月に周期的に寒さを感じる事もありましたが、総じて平年よりも高く推移し、積算気温は116%（プラス477度）となりました。また日照時間は春耕起や水稲収穫期に晴天が続き平年比112%（プラス129時間）となりました。降水量に関しては平年比79%（マイナス200ミリリットル）となりました。

本年は高温少雨の中、農作業は順調に進捗しましたが、施設園芸作物では高温障害による影響が広範囲で見られました。しかし、一時期に集中した降雨が幾度かあり、排水不良地等では病害虫の蔓延や生育阻害を受けた場面もあり、排

水対策を踏まえた基盤整備や土地改良の重要性は年次変動にかかわらず必須課題と考えます。

昨年の各作物の作柄は、次のような概況となりました。

水稲では、本田移植後分けつがやや遅れ、総刈数は少なくなりましたが、登熟が良好で品質・食味も高い水準にありました。千粒重が貢献し収量は「平年並」となりました。

ミニトマトなど施設野菜類は、高温期の花飛びや着果不良・樹勢低下等による収量低下が影響し生産計画数量を下回りました。

肉牛につきましては、黒毛和種素牛の出荷頭数は堅調でしたが、販売単価は軟調に推移していました。

軽種馬生産では、サラブレッド市場成績が過去最高額を記録した前年に更に上積みされ、今後への明るい兆しが窺えました。また、ホッカイドウ競馬においても馬券発売額が近年の好調を維持しています。JRAでも日高管内生産馬が大活躍し、全国ニュースでも数多く取り上げられ、馬産地「日高」

の名前が広く伝えられました。

農業を取り巻く情勢は、まだ予断を許さない場面が多く見込まれますが、今、地域の成すべき事は、施策に依りて長期的な戦略検討が必要であり、10年後の目指す姿のため「今すべきこと」を見つめ直し、一歩づつ積み上げていく事が肝要かと思えます。

農業者の皆様の果敢な取り組みと、日高地域の良さを生かした次世代に繋がる農村・地域づくりを、普及センターは「農業者・地域とともに考える活動」を第一として進めて参ります。

結びに、本年が皆様にとりましてご健勝で豊穰の年となりますようご祈念申し上げ、新年に当たってのご挨拶といたします。

